

京都 神と仏の歳時記

第四回

疫病退散

新型コロナウイルスの蔓延は
令和に生きる私たちを恐怖に陥れた。
医学の発達した現代で、なぜ。
何があっても感染したくない！。
そんな思いから人々はアマビエにすがった。
しかし、あるではないか、京都には強力な護符が。
粽にも茅の輪守にも書かれている文字
「蘇民将来之子孫也」をお忘れか。
いまこそ私たちは、この意味を思い起さすべきだ。

写真・文 秋尾沙戸子





神々が遷られた神輿3基は鴨川を渡って氏子地域を巡り、四条寺町の御旅所へ。7日間、無言詣りをすると願いが叶うとの説もある。

疫神とは闘わず、楽しませて鎮める

京都ほど疫病退散に熱心な都市もないだろう。平安時代から何度も疫病の流行に悩まされ、その都度、人々は神仏に祈った。

その原因を、無実の魂の祟りとか、海外から渡来した疫神だと、先人たちは考えた。そこで、御霊や疫神を慰めて読経や歌舞芸能を捧げ、機嫌がよくなったら余所に、あるいは水に流してしまおう。これが祇園信仰の根底にあり、やがて形を変えながら、祇園祭は一一五一年も続いてきた。

現在の祇園祭は二本立てである。商人の贅を尽くして華やかな懸装品を纏った洛中の山鉦風流は、疫神に捧げた歌舞芸能が進化したものともいわれる。七月十七日と二十四日、朝から鉦先や松葉の先に疫神を集めてまわる。先頭を行く長刀鉦の稚児が舞うのは疫病退散の舞だ。

夕方は、神輿三基に遷られた素戔鳴尊と櫛稲田姫(妻)と八柱御子神(子どもたち)が鴨川を西へ渡る。洛中の氏子地域を訪れて御旅所に留まり、疫病から人々を守る。鴨川を越えて七日間鎮座されている神々に氏子たちは手を合わせ、無病息災を祈り、感染からの守護に感謝を伝える。

疫神の災いを鎮める祭は奈良時代から数々あった。たとえば鎮花祭。春の陽気の中で花の精に煽られて活発化する疫神を鎮めようというものだ。現在も続く紫野今宮神社などの「やすらい祭」がそれで、囃子や歌舞によつて疫神の気を引いて、花を挿した風流傘へと誘いこみ、境内にある疫神社へと鎮める。他に、平安京の四隅や畿内の境で疫神の侵



長刀鉦の稚児が舞うのは疫病退散の舞



松や鉦の先に疫神を集めて巡行する

入を防ぐ疫神祭もあった。中でも六月と十二月に行われた道饗祭は、路上に神々を祀り、魍魅魍魎を蜜柑などで饗応し、火を焚いて駆逐した。現在も行われている御火焚はその流れを汲む。

ところが、ある時期から、疫病をもたらす神は、感染から守ってくれる神へと真逆の転身をする。その代表格が祇園社(現八坂神社)のご祭神、牛頭天王だった。外来の牛頭天王こそが守護神となったのである。

転身の決め手は「蘇民将来伝説」だった。牛頭天王が神の誓いとして「自分に善行を施してくれた蘇民将来の子孫だけは助ける」とした話と共に牛頭天王信仰が広がった。

しかし、明治政府の神仏分離政策によつて、祇園社は八坂神社に、守護神は素戔鳴尊になったのである。



八坂神社西楼門入ってすぐにある疫神社。コロナ禍の令和2年は3月から茅の輪が設置され、多くの人々が疫病退散を祈った。

蘇民将来の子孫は疫病から守られる

疫病退散で知られる疫神社は、八坂神社境内にある。そこは西楼門を潜ってすぐ目の前祀られているのは蘇民将来だ。

祇園祭は七月一日から一カ月かけて斎行され、最終日、疫神社での夏越祭で幕を閉じる。鳥居に大きな茅の輪が設置され、そこを潜りながら参拝した後、この日だけ授かる茅を丸めて人々は輪を作る。この輪に「蘇民将来子孫也」と書かれた護符をつけて玄関に掲げれば、疫病から守られると信じられているからだ。京町家の軒下でみかける祇園祭の粽にも「蘇民将来子孫也」とどこかに書かれている。茅の輪と粽、実はルーツは同じなのだ。

蘇民将来とは、旅に出た素戔嗚尊（明治までは牛頭天王）に、宿を提供した人物である。貧しいながらも狭い家に泊めて、粟と稗でもてなした。他方、裕福で立派な家を持ちながら意地悪な弟は、素戔嗚尊の申し出を拒んだのだった。

素戔嗚尊は蘇民将来に告げる。「後に疫病が流行るが、蘇民将来の子孫であると言い、腰に茅の輪を巻けば救われる」と。実際、疫病が蔓延し、弟はもちろん、すべての者が病死。蘇民将来の一族だけが生き残り、繁栄した。

古から伝わるこの話は実はもっと複雑で、時代と共に話の詳細は紆余曲折変化している。だが、裕福なのに利己的な者が命を落とし、貧しいながらも他人を助ける者こそが生き延びる——。このシンプルな美談は現在まで語り継がれ、祇園祭の底流にある。

他に、東山の粟田神社と紫野の今宮神社で

も「蘇民将来子孫也」の護符が授けられる。興味深いのは、今宮神社などで木版刷りの牛王宝印も授与していることだ。これは牛頭天王信仰が浸透していた江戸時代に広まった厄除けの護符で、東山の法住寺や清水寺でも、正月にこれを授けている。

金儲けや経済発展にばかり邁進してきた現代人——。新型コロナウイルス蔓延を神が与えた罰だとすれば、蘇民将来伝説は雄弁である。私たちはいまこそ子孫として蘇民将来を見習うべきだ。日ごろから我欲を捨てて謙虚に生き、他人を思いやり、神仏に感謝を捧げること。結果、どんなウイルスにも感染することなく生き残れるはずである。素戔嗚尊は、そう約束されたのだから。



人形（ひとがた）の中に「蘇民将来子孫也」の護符



やすらい祭の図（今宮神社所蔵）

あなたは一〇〇年先の京都の姿を想像できますか？

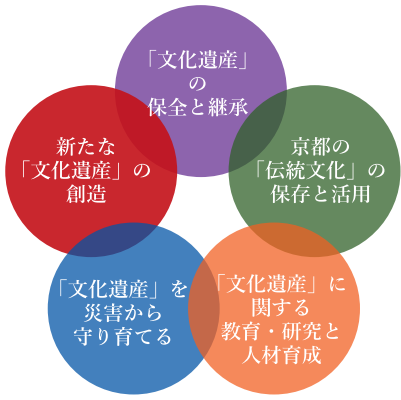
「明日の京都文化遺産プラットフォーム」は、一〇〇年先に思いを巡らせ、京都の文化遺産を守り育み、創造することを目指しています。

いま世界中から人びとが京都に押し寄せてくるのはなぜか。平安遷都から千二百年余。先達が守ってきた歴史と文化が、そこに存在しているからです。昭和の戦火を免れ、神社仏閣も城も京町家も燃え尽くされなかったのは、実に幸運なことでした。しかしながら、開発の波や昨今の自然災害を受け、これらを守り通すことは容易なことではありません。

当団体の趣旨は、古都京都の文化遺産を毀損することなく後世に継承すること、「文化遺産」に現代的な課題に応える価値を見出し、未来に向けてその存在意義を高めていくこと、一〇〇年先を見据え、新たに「未来の文化遺産」を創造することにあります。

趣旨に賛同してくれているのは、元ユネスコ事務局長、京都仏教会、京都府神社庁、伝統文化の家元たち、暖簾や家を守り継ぐ人々、作家、研究者、京都府、京都市などなど。京都のことを心から愛し、京都の未来を心から案じている人々が、立場を超え、お互いを尊重しつつ、多様性に富み、複眼的な意見を交わしながら運営しています。

当団体は、5つの事業領域(①「文化遺産」の保全と継承、②京都の「伝統文化」の保存と活用、③「文化遺産」に関する教育・研究と人材育成、④「文化遺産」を災害から守り育てる、⑤新たな「文化遺産」の創造)に沿って、活動しています(図参照)。



誇るべき事業のひとつは、世界文化遺産「京都京都の文化財」に登録される社寺城が集い、景観や防災などについて検討するネットワーク会議を開催。同じ悩みや問題を抱えている文化財所有者をつなげ、一堂に会して話し合う場を提供していることでしょう。また、そうした文化財所有者が課題を市民と共有する場として「明日の京都講座」も開催。

未来を担う次世代を育成すべく、大学とも連携。社寺城の協力を得て、文化遺産をフィールドに学ぶ場を京都の学生に提供しています。また、小学生を対象に、百人一首とお茶会を京まち家で体験学習する場も提供しています。

中核事業として毎年、フォーラムを開催。一〇〇年後を見据えた展望と方策を考え、提言しています。昨年度は、「平安王朝文化と明日の京都」をテーマに、京都文化の原点となる平安王朝文化を振り返り、貴族文化がいかに受け継がれ、これからの京都の力になるかを考えました。

また、I COM(国際博物館会議) 京都大会に係る趣旨に賛同し、京都大会の機運盛り上げのため、緊急フォーラム「博物館は生きている」I COM 京都大会に向けて」を開催。人類の叡智の結晶である文化遺産を時代を超えて繋いでゆく博物館・美術館の役割と意義を考え、今後の課題に迫りました。根底にあるのは、文化遺産へのリスペクトと先人への感謝の思い。全ての人が日々の暮らしの中で京都の歴史の重さを感じ、それをかけがえの無いものとして捉えられることを当団体は目指しています。

平安京羅城門復元模型前に駒札を設置

平安京の表玄関「羅城門」。その十分の一模型が京都駅北口広場に姿を現し、新しい名所となっているのをご存知でしょうか。私たちは実物大の羅城門を現代によみがえらせるべく、広く皆さまに賛同を呼びかけてまいります。

【お願い】
平安京羅城門復元模型の維持管理にご支援をお願いしております。詳細は「明日の京都HP」にて。
<http://tomorrows-kyoto.jp/> (明日京文化/検索)



■平安京羅城門復元模型が京都駅北口広場東に展示されています。ぜひお立ち寄りください



今年度の一般公開事業(予定)

- ◆フォーラム
「京都大火災〜火の海に漂うまち 京都〜」
令和二年十月十一日 十四時
- ◆明日の京都講座
- ◆無形文化遺産シンポジウム
開催日時の詳細は、ホームページにて随時掲載いたします。



明日の京都HP

〒604-8520

京都市中京区西ノ京朱雀町一番地

(立命館大学社会連携課内)

TEL 075・8113・8166
FAX 075・8113・8167

令和二年十月十一日発行
発行 明日の京都文化遺産プラットフォーム事務局